

山形市長インタビュー



佐藤 孝弘 市長

平成12年3月	東京大学法学部卒業
平成12年4月	通商産業省（平成13年1月より経済産業省に名称変更）入省
平成15年4月	経済産業省退職
平成15年5月	起業（おにぎり専門店経営）
平成17年2月	日本経営合理化協会勤務
平成19年3月	公益財団法人東京財団研究員
	第18代山形市長就任
平成27年9月28日	1期目：平成27年9月27日～令和元年9月27日
	2期目：令和元年9月28日～

本協議会としては、スキーバブルともいえる90年代にいつまでもとられるのではなく、今をスタートラインにしてこれからどうしてゆくのか、未来志向が重要だと考えています。蔵王温泉スキー場という日本でも有数のスキー場を有する山形市の、スノースポーツやスノーリゾートに対する取り組みや考え方を関係者にご紹介することを通して、スノー関係の皆様と前向きに進んでゆきたいと考えています。

岩尾専務)

本日はお忙しい中、市長の貴重なお時間をいただきありがとうございます。山形市には城下町としての風情が残されているだけでなく、対外的にアピールできる魅力はたくさんあると承知しています。ただ、本協議会といたしましては、関心事項はやはりスキー場としての蔵王です。蔵王を中心にいくつかご質問をさせていただきます。貴市における蔵王の位置づけ、観光における蔵王の比重はいかがでしょうか。



佐藤市長)

当市の観光はやはり蔵王ですが、松尾芭蕉ゆかりの山寺や城下町としての風情も皆様に味わっていただけたと思います。蔵王は通年でお客様に来ていただいておりますが、樹氷、スキー、温泉等からやはり冬場が多いです。しかしながらトレッキングや御釜鑑賞など夏にも魅力あるコンテンツがあり、夏場の集客にも力を入れています。そのために、今年8月に開催される山の日全国大会の誘致などもしました。

岩尾専務)

冬期は一般的に観光の閑散期とされていますが、その中で、近年、ますます雪の魅力が注目を集めています。コロナ禍でこの数年はインバウンドがありませんが、それ以前はいかがでしたでしょうか？

佐藤市長)

インバウンドでは残念ながら東北は一人負けでした。ただ、平成27年くらいから、台湾を中心にタイなどアジアのお客様が増えてきました。雪を見るだけではなくスキーを体験するツアーなども動き始めた矢先にコロナになってしまいました。スキーなどを体験していただき、その面白さを分かっていたいただければリピーターになっていただけます。幸い、コロナも一段落し、各国も規制を緩めています。中国や台湾はまだ慎重ですが、来シーズンに向け、インバウンドの受け入れ準備を進めていきます。



コロナ前はオーストラリアからのインバウンドもありました。この方々はスキーを中心に、長期滞在で、周辺の観光もされていたようです。スキー場は、土曜、日曜が中心で平日はお客様が少ないです。1, 2週間滞在していただけるお客様は大変貴重です。彼らには定宿があり、宿の方と親しく交流をされていたようです。コロナで3年あいてしまいましたが、是非、そのような交流を復活してほしいですし、オーストラリアへのプロモーションも進めていこうと思います。

岩尾専務)

蔵王などのスノーリゾート地域を活性化させるには、やはり、スキーなどのスノースポーツ人口の拡大が肝要です。90年代のスキーバブルの時代と比べますと、コロナの影響もありましたので、スノースポーツ人口は大幅に減少しています。スノースポーツ人口を拡大するためには、インバウンドの受入れとともに、やはり、子供たちにスキーに親しんでいただく事が肝要だと思います。雪国の市としての貴市の取り組みはいかがでしょうか。

佐藤市長)

市内37の小学校全てでスキー教室を実施しています。

岩尾専務)

授業ではいかがでしょうか。私は北海道の田舎で育ちましたので、冬の体育の授業はほとんどスキーでした。学校の裏山で滑っていました。

佐藤市長)

北海道とは少し事情が違います。蔵王までは車で30分ほどかかりますので普段の授業の中で行うことは困難です。遠足のような感じです。また、課題の一つとして子供たちは成長しますのでスキー板や靴の買い替えなど家庭の負担もあります。ただ、雪国ですから、子供達にはスキーに親しんでほしいため、市としてスキー教室実施の際の補助や経済的支援の必要な家庭への用具代の助成もしています。

岩尾専務)

スキー大会の誘致や市民向けのスノースポーツの振興等はいかがでしょうか。

佐藤市長)

平成25年度から平成27年度にかけて蔵王のジャンプ台を国際規格に合わせて改修し、また、夏場でも競技ができるようサマーヒル化改修も行いました。「FIS女子スキージャンプワールドカップ蔵王大会」も平成23年度より開催しています。令和2年度と令和3年度は新型コロナで中止になりましたが再開に向けて関係者と調整しています。改修により夏でも飛べるようになりましたので、今年8月、新たに国内のサマージャンプ大会を開催する予定です。



また、市民向けに開催しているスポーツ教室として、「山形市民スキー教室」の実施などいろいろ取り組んでいます。指導者は多いですから、市民レベルでの取り組みも盛んです。

岩尾専務)

蔵王温泉スキー場は、貴重な観光資源であると同時に地域の活性化の要であると思います。貴市としての取り組みはいかがでしょうか。

佐藤市長)

蔵王はスキー場だけではなく樹氷や1900年の歴史を誇る温泉があり、市民の誇りです。活性化に向けては蔵王温泉地域の皆様とも密接に連携を図っています。地域の振興はホテル、旅館、索道事業者等関係者がその気にならなければ前に進みません。幸い、インバウンドの再開も見据え、積極的な投資の動きも出てきています。旅行の形態も団体旅行から家族、個人旅行に変化しており、宿泊と食事の分離も進んできています。そうすると、温泉街も歩いて楽しめる街作り、アフタースキー、これらの要素も取り入れ、ニーズに合わせた総合的な魅力作りが求められます。旅館経営者の跡継ぎ世代も元気ですから、市としても地元の様子を応援したいと思います。



具体的には、空きテナントの活用の動きが出ていますし、令和5年12月には道の駅が蔵王の入り口の国道沿いにオープンします。これを投資の呼び水にしたいと考えています。

赤穴事務局長)

蔵王には、スキーのみならず、樹氷、温泉など大きなポテンシャルがあります。関西では蔵王が一番有名で、機会があればぜひ行ってみたいというスキーヤーも多いです。

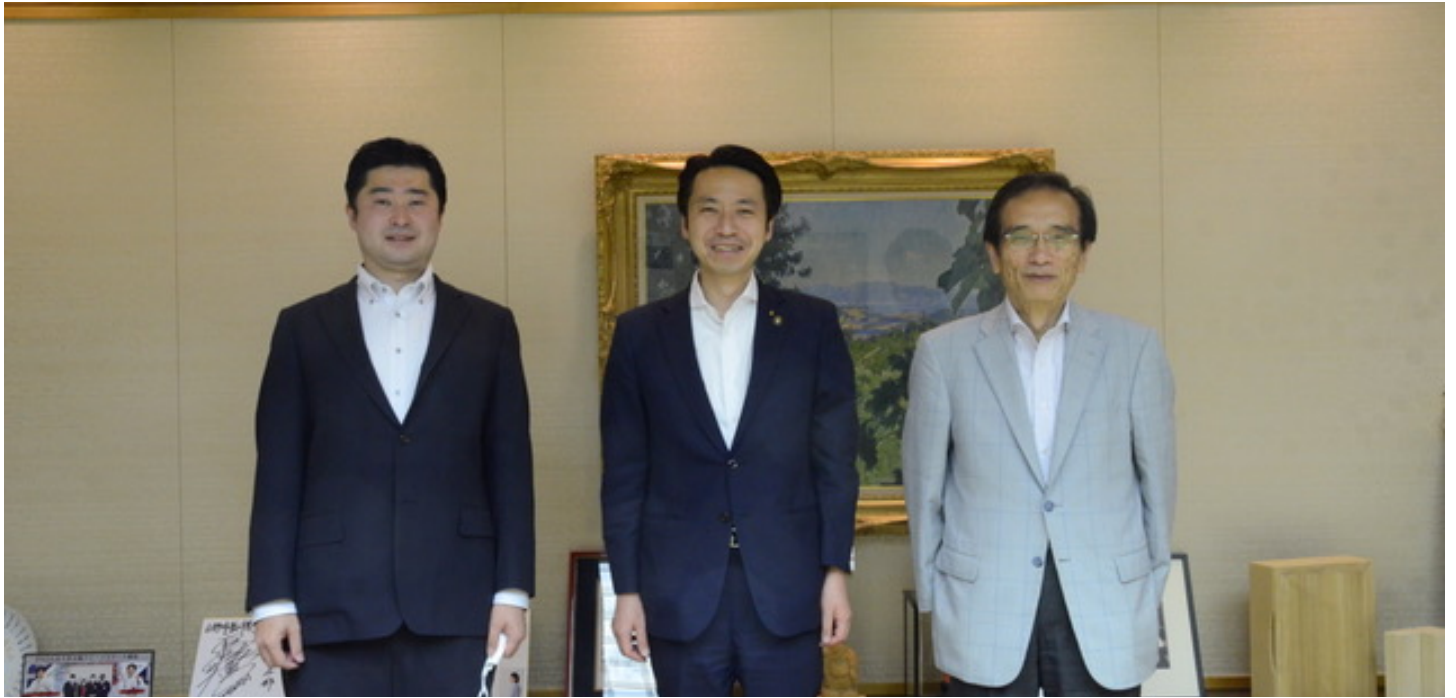
佐藤市長)

他県に行ってお話を伺うと「山形といえば蔵王ですね」と言われます。この知名度をぜひ生かしていきたいと思います。



岩尾専務)

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございました。日本有数の観光地でありスキー場でもある蔵王で、積極的な投資の動きがあることをお聞きし心強く思いました。微力ではありますが、本協議会は今後もスノースポーツ、スノーリゾートの発展のため活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。



写真（左から）：協議会会長補佐 芳賀／佐藤孝弘 山形市長／協議会 岩尾専務